



きこえ、ことばの教室だより

令和7年 第3号
千葉市立院内小学校

暑い毎日が続き、プールから子供たちの元気な声が聞こえてきます。早いもので間もなく夏休み。夏休みは、親子が共に過ごす時間が長くなります。親子が一緒にふれあい、じっくり付き合う中で、言葉が育つよいチャンスです。そんなチャンスを生かし、元気に有意義な夏休みを過ごしてほしいと思っております。

夏休みが終わった時に、「楽しかった」「〇〇ができたよ」と、日に焼けた元気な姿とともに、子供たちのわくわく、どきどきした話を聞くことができるのを楽しみにしています。

口周りの機能を高めるための遊び

夏休み編

米菓子遊び (にんじんと言う名で駄菓子屋で売っているあられ) 唇を舌先でなめてそこにわざと米菓子つけ、それを舌先で取る。

ストローで飲む (唇を閉めないと飲めません) 冷たい飲み物は全てストローで飲む。ちなみに、1本ずつ袋に入っているタイプなら使う前に、袋を破った方からフツと吹いて、袋の口ケット。

朝起きた時顔洗い、水でブルブル。皮膚感覚も鈍い子も多いので、熱い冷たいの感覚も鍛える。

ソフトクリーム お出かけしてアイスを買う際、カップかコーンか迷ったら、コーンを買う。“**なめて食べる**”は最高の舌の体操。

ストローの魚つり
(唇を閉じて、息を吸う運動)。



シャボン玉 ゆっくり吹いて大きく作る。強く吹いてたくさん作る。

風船ガム しっかり噛んで膨らませる。舌の動きはもちろん、唇、息も、総運動員。



スイカは外で食べて、
タネ飛ばし競争をする。

空の**ペットボトル**を唇だけでくわえ、思い切り頬をへこませながら、ボトルがつぶれるくらい、中の空気を吸い込む。次は、息をしっかり吐き返し、つぶれたボトルを膨らませる。

ご飯やおかずをいつもより**しっかり噛んで食べて**みよう。

うがいは、ブクブクとガラガラを。ブクブクは、唇閉じてほっぺを膨らませたりすぼめたり。ガラガラは、喉の奥に水をためておかなければ出来ない。



吃音の本から、クイズを抜粋しました

吃音 O×クイズ

(「吃音のことがよくわかる本」菊池良和監修より抜粋)

問題

① 吃音の話し方をまねしていると吃音になる。	
② 子どもが吃音になる原因は親の育て方である。	
③ すらすら話せるときがあれば、治ったといえる。	
④ 「ゆっくり話そう」とアドバイスした方がよい。	
⑤ 吃音のある子の半分以上は、からかわれた経験がある。	
⑥ 吃音は工夫して隠した方がよい。	
⑦ 治るかどうかは、本人の性格と努力しだいである。	

吃音があっても気にせずに話をする子もいますが、話し方を変えたいと悩む子もいます。現在、吃音の原因や治し方はわかっています。吃音について正しい知識をもち、吃音を気にせず自分らしく話せる環境を整えることが、子供の悩みや不安の軽減につながります。



答え

① × 吃音は子どもが急激に言葉を獲得していくうえで起きる副産物のようなもの。 原因はわかっています。
② × 吃音が始まるかどうかを決める最大の要因はよくわかっています。 育て方とも関係がありません。
③ × 吃音があるからといって常に吃るわけではありません。すらすら話せる時もあるのが吃音です。
④ × 「ゆっくり」「落ち着いて」などのアドバイスは、「あなたの話し方はダメ」と言っているように聞こえます。 話し方よりも話の内容に耳を傾けてください。
⑤ ○ からかいを受けた答えた子が多数います。 大人が介入するなどして、からかいを無くすことが大切です。
⑥ × 吃音を隠そうとするあまり人との関わりを避けるようになります。 吃音の最大のリスクです。
⑦ × 本人の性格や努力とは無関係です。